

輪中地域の治水史のさがし方



「輪中とは？」

低湿地帯により洪水から集落や耕作地を守るため、その周囲に堤防を張り巡らした囲堤のことを輪中とといいます。海津市の輪中地域では、長年洪水に悩まされており、江戸時代と明治時代に大規模な治水工事がなされています。

「宝暦治水（江戸時代）」

江戸幕府が薩摩藩に命じて行わせた河川改修工事です。

- 『宝暦治水と薩摩藩土』（伊藤信/著 郷土出版社 1986年）
初版は1943年に発行され、その後何度か復刻されています。詳細な目次に加え、巻末に索引も掲載されており、宝暦治水に関する基本書です。
- 『宝暦治水薩摩義士顕彰百年史』（高橋直服/著 高橋直服先生著書刊行会 1995年）
宝暦治水に限定せず、明治の三川分流工事についても一部記載されています。

「木曾三川分流工事（明治時代）」

オランダ人技師ヨハニス・デ・レイケが中心となって行われた河川改修工事です。この改修工事により、現在の木曾三川の地形が形成されています。

- 『デ・レーケとその業績』（建設省中部地方建設局木曾川下流工事事務所/編集・発行 1987年）
日本国内でのデ・レイケの業績について、詳細に記された唯一の書です。
- 『日本の川を甦らせた技師デ・レイケ』（上林好之/著 草思社 1999年）
改修工事よりもデ・レイケ自身にスポットを当てており、当時の日本国内の土木事情についても記載されています。

「その他類似書の紹介」

- 『輪中と治水』（岐阜県博物館/編 岐阜県博物館友の会 1990年）
- 『濃尾に於ける輪中の史的研究 増補改訂版』（松尾国松/著 大衆書房 1993年）

海津市海津図書館 平成26年3月作成

「岐阜県の治水史を調べる」

岐阜県図書館もご活用ください

岐阜県では昔から大雨が降るたびに洪水による被害にみまわれてきました。特に木曾川・長良川・揖斐川の「木曾三川」下流域では、洪水による被害が甚大でした。木曾三川下流域を中心に、県内各地の治水の歴史と生活について書かれた資料を紹介します。

1. 県内の治水を調べる

- 『岐阜県治水史 上・下』（岐阜県/編集・発行 1953年）
岐阜県の治水の歴史を調べる時の基本的資料です。
- 『伝統的防災施設 「霞堤」や「輪中堤」を残し、地域を洪水から守ろう』（岐阜県県土整備部河川課/編,2013年）
水害の多い岐阜県で身を守るために先人が築いてきた伝統的防災施設を県内全域、西濃、西濃中部、西濃南部、中濃、飛騨と地域ごとにまとめたものです。

2. 木曾三川の治水を調べる

- 『木曾三川流域誌』（木曾三川流域誌編集委員会/編,建設省,1992年）
木曾三川に重点をおき、水域を「社会と文化」「治水」「利水」「産業」の各分野を通してまとめたものです。「輪中の形成と推移」の章もあります。
- 『輪中 その形成と推移』（安藤万寿男/著,大明堂,1988年）
輪中の定義から歴史、岐阜県内の各輪中についてまとめています。
- 『変容する輪中』（伊藤安男/編著 古今書院 1996年）
特徴ある景観や建築・農法にとどまらず、交通・水利慣行・食文化・水防組織など輪中の生活文化を広くとりあげ、その変容を全体としてとらえた書です。
- 『大垣市史 輪中編』（大垣市 2008年）
大垣市内の輪中について、成立、水屋建築、堀田、食文化などについてまとめています。岐阜県内の自治体史のなかでも輪中だけを取り上げた巻があるのはこの大垣市史のみです。宝暦治水についても近年の研究に基づいてふられています。
※このほかにも、流域の市町村史や、「郷土新聞記事検索」「郷土雑誌記事検索」で「輪中」などのキーワードで、関連記事を検索できますのでご利用ください。

岐阜県図書館 平成26年作成